

朝日ラバー (5162・JASDAQ スタンダード)

2012年1月26日

LED 関連、医療・衛生用に独自のゴム製品を多数提供

ベーシックレポート

モーニングスター(株)
白石 和弘

会社概要

所在地	埼玉県さいたま市
代表者	横山 林吉
設立年月	1976/06
資本金 (2011/03/31 現在)	516 百万円
上場日	1998/09/04
URL	http://www.asahi-rubber.co.jp/
業種	ゴム製品

主要指標 2012/1/23 現在

株価	242 円
昨年来高値	319 円 (11/2/14)
昨年来安値	198 円 (11/3/15)
発行済株式数	4,618,520 株
売買単位	500 株
時価総額	1,117 百万円
予想配当 (会社)	8.00 円
予想EPS (アナリスト)	19.78 円
実績PBR	0.39 倍

調色・配合技術に強み、医療用ゴム製品が好調

同社は、車載向けをはじめとする LED 関連のほか、医療・衛生関連向けなどにゴム製品を開発・製造している。コア技術である調色技術が結実した主力製品「ASA COLOR LED」は 1 万色以上の発色を実現しており、主力の車載向けに加え、商業施設向けにも利用が広がっている。また、車載向け彩色用ゴム製品を手がけてきた経緯から、同社はゴムの配合技術にも強みを持つ。

【点滴輸液バッグ用ゴム栓】

医療・衛生関連では配合技術を活かし、医療の安全に寄与するディスプレイ用ゴム製品を供給。足元ではプレフィルドシリンジ向けガスケットが好調に推移している。



第 2 四半期から自動車関係の受注が回復

12 年 3 月期第 2 四半期累計の連結業績は、売上高 23 億 7,400 万円(前年同期比 1.3%減)、営業利益 5,800 万円(同 36.5%減)。8 月に期初予想からの上方修正を発表していたが、実績はこれを上回って着地。東日本大震災の影響で減少していた自動車関係の受注が第 2 四半期(11 年 7~9 月)から持ち直したことに加え、医療用ゴム製品のプレフィルドシリンジ向けガスケットの販売が好調に推移したことが寄与した。

12 年 3 月期は会社計画からの上ブレを見込む

上期までの好調を踏まえ、会社側は 12 年 3 月期の通期見通しについても期初予想から上方修正。ただ、自動車関係の受注の堅調やプレフィルドシリンジ向けガスケットの好調のほか、工場での歩留まり改善による利益率向上などを考慮すると、修正計画にはさらなる上ブレ余地が見込まれる。モーニングスターでは、売上高 50 億円(前年比 4.0%増)、営業利益 2 億 4,000 万円(同 49.1%増)と予想した。

業績動向		売上高 百万円	前期比 %	営業利益 百万円	前期比 %	経常利益 百万円	前期比 %	当期純利益 百万円	前期比 %	EPS 円
2011/03	実績	4,806	3.0	161	28.9	117	28.0	21	-47.8	4.81
2012/03	会社予想 (2011 年 11 月発表)	4,820	0.3	202	25.0	141	20.1	83	3.8 倍	18.24
	アナリスト予想	5,000	4.0	240	49.1	160	36.8	90	4.3 倍	19.78
2013/03	アナリスト予想	5,320	6.4	280	16.7	175	9.4	95	5.6	20.88

会社概要

会社概要

自動車関連・医療関連・スポーツ用品関連と、さまざまな分野に高機能なゴム製品を製造・供給している。主力の自動車関連では、スイッチ、スピードメータ照明用途などに、LED 彩色用シリコンゴム製品「ASA COLOR LED」を提供。また、医療関連では点滴輸液バッグ用のゴム栓やプレフィルドシリンジ（薬液があらかじめ充填された注射器）向けガスケット、スポーツ用品関連では世界的に高シェアを誇る卓球ラケット用ラバーを手掛けるなど、ニッチな分野において独自のゴム製品を数多く提供している。先進的な製品開発のため大学との産学連携など研究開発に注力しており、開発部門として開発本部およびファインラバー研究所を設置している。

国内工場は福島県に3カ所。海外子会社としては、朝日橡膠（香港）有限公司、東莞朝日精密橡膠制品有限公司（広東省）、ARI INTERNATIONAL（米イリノイ州）の3社を抱える。12年3月期第2四半期累計実績での売上構成比は、工業用ゴム製品が74.7%、医療・衛生用ゴム製品が25.3%。

経営理念

◆ 経営理念

グループの基本理念としては、「お客様に満足いただく製品・サービスを提供し、社会に貢献する」、「独自の新製品・開発製品を、絶え間なく市場に供給し続ける」の2つを掲げている。

代表取締役社長の横山林吉（しげよし）氏は、1976年に同社に入社（当時は有限会社朝日ラバー）。技術部長、取締役営業部長などを経て、2003年に社長に就任。一方、現会長の伊藤巖氏は創業者。30代で当時勤務していたゴムメーカー（東全ゴム）を退職し、1970年に同社（有限会社朝日ラバー）を設立した。

沿革

◆ 沿革

会社設立当初は、時計のゴム部品やカーオーディオ部品などを製造。しかし、これらの製品は原価率が約7割と高かったため、事業の収益性は低く、業績は厳しかった。その後76年に、シリコン製ゴムキャップ「ASA COLOR LAMPCAP」の開発に成功。工業用ランプは発光・発色にバラつきが出やすく、電球メーカーやカーオーディオメーカーは苦戦していたが、ASA COLOR LAMPCAPは小型電球に被せることでさまざまな色を出せるゴムキャップとして、「発光・発色ムラをなくしたい」というメーカーのニーズに合致。最盛期には年間5億個を出荷するまでの主力製品に成長した。ASA COLOR LAMPCAPの開発時に培われた照明の調色技術および色調管理技術は同社のコア技術となり、現在の主力製品であるASA COLOR LEDの開発に結びついている。

会社概要

1970年	05月	有限会社朝日ラバーを設立
1976年	06月	株式会社朝日ラバーを設立。「ASA COLOR LAMPCAP」を開発、生産をスタート
1988年	11月	医療用ゴム製品の生産を開始
1989年	06月	スポーツ用ゴム製品「卓球用ゴム製品」の生産開始
1994年	11月	弱電用高精度ゴム製品「電池用ゴム製品」の生産開始
1998年	09月	株式店頭公開（現・大阪証券取引所 JASDAQ）
1999年	06月	米国イリノイ州に現地法人「ARI INTERNATIONAL CORP.」を設立
2000年	02月	青色 LED を白色に変換する LED ホワイトキャップ（現・ASA COLOR LED）を開発
2005年	11月	子会社「朝日橡膠（香港）有限公司」を中国・香港に設立
2010年	07月	中国広東省に生産工場を持つ「東莞朝日精密橡膠製品有限公司」を設立

（会社資料よりモーニングスター作成）

1 万色以上を
発色する
ASA COLOR LED

◆ コア技術

照明の調色技術が当社のコア技術。LED を含め、照明は光源自体で色を均質につくり出すことは技術的に難しいとされる。一方、同社は ASA COLOR LAMPCAP の開発当初から蓄積してきた調色データをデータベース化し、検索システムを構築。主力製品の ASA COLOR LED は、青色 LED の上に蛍光体・顔料を配合したシリコンゴムキャップを被せたもので、キャップ内の蛍光体・顔料を調合することで多様な色をつくり出すことが可能となっている。

現在、ASA COLOR LED は 1 万色以上の発色を実現。微妙なグラデーション領域にある色の発色についても、キャップを被せるだけでムラのない光を出すことに成功している。また、青色 LED には光の波長や出力にそれぞれ特性があるが、同社では各特性を 100 種類以上に分類し個々の青色 LED ごとにキャップを制定することで、色調をコントロールしている。

ASA COLOR LED は、これまでに計器類など車載向けを中心に採用されている。一方、商業施設などの一般照明用途では LED を大量に並べて使用するケースが多く、LED 単体の使用では発色・発光のバラつきにより商品価値が下がってしまう場合がある。こうした課題をクリアするため、車載向け以外にも ASA COLOR LED が採用されるケースが増えている。

事業概要

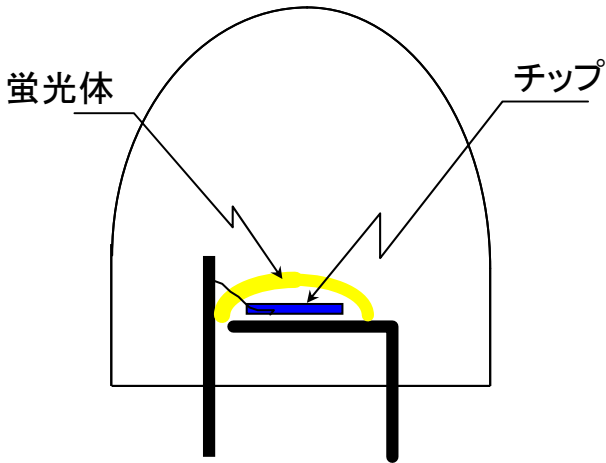
	株主	所有株式数 (千株)	所有比率 (%)
1	伊藤 潤	942	20.4
2	伊藤 巖	222	4.8
3	朝日ラバー共栄持株会	214	4.6
4	南日本銀行	195	4.2
5	朝日ラバー従業員持株会	168	3.6
6	室井 豊	134	2.9
7	武蔵野銀行	113	2.4
8	横山 林吉	99	2.2
9	東邦銀行	97	2.1
10	西京銀行	84	1.8

(11年9月30日現在、四半期報告書よりモーニングスター作成)

事業概要

◆ ASA COLOR LED の構造 (会社資料より抜粋)

白色LED

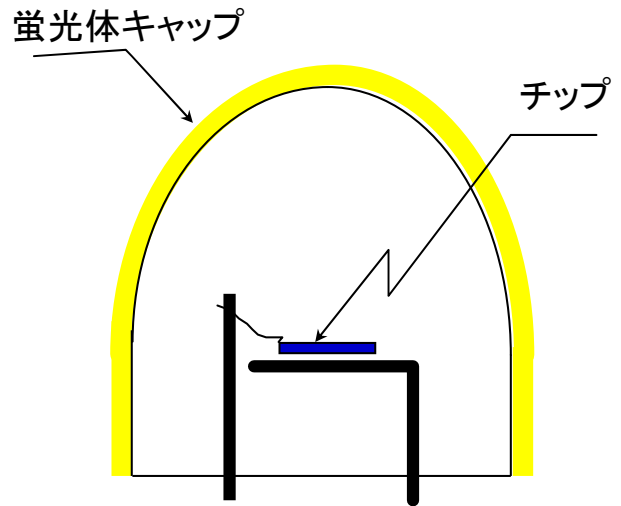


青色LEDチップの上に、蛍光体が薄い塗膜として分散されている。

膜厚の管理が難しい(数十 μm)
 蛍光体濃度の管理が難しい(流動性)

色調管理が難しい

ASA COLOR LED

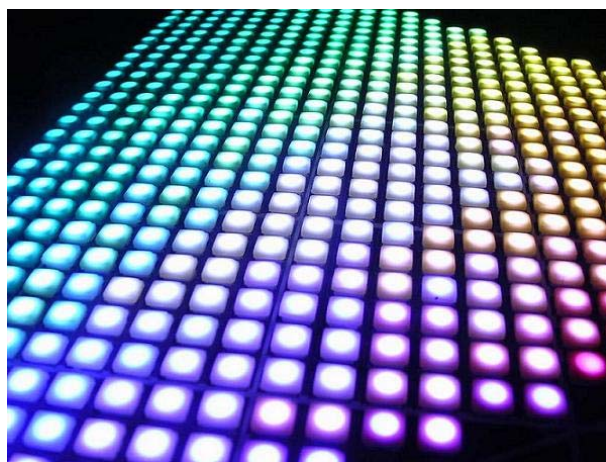


蛍光体を分散させたシリコンゴムキャップを青色LEDに被覆する。

膜厚の管理が容易(300 μm)
 蛍光体濃度の管理が容易(非流動性)

色調管理が容易

◆ 点灯している ASA COLOR LED



事業概要

◆ 分野別の事業内容

同社の事業は、工業用ゴム事業と医療・衛生用ゴム事業の2つの分野に分けられる。工業用ゴム事業では、主に車載用途で ASA COLOR LED や ASA COLOR LAMPCAP などの彩色用ゴム製品を供給。また、小型燃料電池や二次電池などの電池の内圧が高まった際、ゴムの弾性によって圧力を逃がす微小圧コントロールバルブなど弱電用高精度ゴム製品も製造している。ほかに、CD プレーヤー・DVD デッキなどのディスクの出し入れガイド用の CD ローラーや、自動車のロックセンサー・ドアミラー防水用途などの O リングも手掛ける。スポーツ用ゴム製品では、卓球ラケットメーカー向けに、高品質のラケット用ラバーを供給している。

配合技術もコア技術の一つ

一方、医療・衛生用ゴム事業では、点滴輸液バッグ用ゴム栓や注射器用の薬液混注ゴム栓などのディスポーザブル製品を供給。医療・衛生用ゴム製品は、(1) 針などを刺してもゴムくずが出ない、(2) 液漏れを起こさない、(3) 溶出する物質がない——といった高品質なゴムを実現する同社の配合技術が活きる分野。ASA COLOR LED における調色技術と同様に、こうした配合技術も他社ゴム製品メーカーとの差別化ポイントの一つになっている。

◆ 主要な製品

「ASA COLOR LED」 青色 LED に被覆して LED 光を彩色するシリコンゴムキャップ。ゴム内部の蛍光体が LED の青色光を吸収することで発光する。独自の調色技術によって、1 万色以上の発光、微妙な色調の発現、均質な発色を可能にしている。主に車載向けで、スイッチ関連、スピードメータ照明、ナビコントロール関連、足元灯、オーディオ照明、LCD バックライト、などに採用されている。ホンダ向けを中心に大手自動車メーカーの機器類に採用実績を持つ。看板などの商業設備向けにも採用が進んでいる。同社では、ライセンス契約を結んでいる LED 国内最大手メーカーの日亜化学工業（徳島県）から LED を調達し、ASA COLOR LED を LED に被せた最終製品の形にして、カーオーディオ機器などのセットメーカーに販売している。

「ASA COLOR LENS」 光透過率 94% 以上という高い透明度を誇るシリコン製のレンズ。シリコンの特性である耐熱性と耐紫外線性により、150 度を超えるような高温環境下での使用に耐えるうえ、紫外線によるレンズの劣化も少ない。携帯電話やデジタルカメラ用のフラッシュレンズ、自動車用 VICS（カーナビゲーションなどに道路交通情報をリアルタイムに送信する情報通信システム）受発信レンズ、街路灯照明レンズのほか、エコカーの

事業概要

ヘッドライトなど通常のLEDより温度が高くなるハイパワーのLED向けなど、幅広い用途に使用されている。

◆ ASA COLOR LENS（会社資料より抜粋）



「卓球ラケット用ラバー」卓球ラケットの国内最大手メーカーに納入されており、全世界に流通している。高摩擦抵抗により、直球にスピがかかるといって高性能・高品質の製品。10年5月に開催された「世界卓球2010モスクワ」では、出場した選手の約7割が同社製品の使用されたラケットで試合に臨んだという。金額ベースでは、世界の卓球ラケット用ラバーの半分程度を同社が供給。卓球ラケット用ラバーに求められる反発弾性や高摩擦抵抗などの性質は一般の合成ゴムで出すことは難しく、天然ゴムと合成ゴムを混合することで生み出される。業績への貢献度は小さい（12年3月期第2四半期累計の売上高に占める割合は9.2%）が、同社の高度な調合技術が発揮された製品としてユーザーからの評価は高い。顧客の販売戦略の変更に伴い11年3月期は売上が縮小していたが、需要減少の一巡と新製品投入の効果もあり、12年3月期に入り売上高は増加に転じている。

幅広い応用が見込まれる
表面改質技術

◆ 注目される新規分野

今後の展開が注目されるのが表面改質技術。これは、表面の分子構造を変化させることで、接着剤を使用せずにゴム同士またはゴムと金属や樹脂など他の素材を接着する技術（分子接着）で、接着剤（有機溶剤系薬品）が不要になるため環境面からもニーズが高まっている。同社ではこの表面改質技術を利用してRFID（無線認識）技術を応用したICタグを開発し、09年夏から量産化。表面改質技術は、情報通信分野に限らず、医療・衛生用ゴム、車載向けのほか幅広く応用が進むとみられ、事業領域の拡大と製品の高付加価値化への寄与が期待される。同社は、12年3月期下期の設備投資計画（約2億8,500万円）に、RFIDタグ新製品設備向けの投資費用として5,000万円を盛り込んでいる。

事業概要

事業環境

自動車関係の受注回復で工業用ゴム事業は回復へ

◆ 事業環境

同社は売上の多くが工業用ゴム製品、特に車載関連の製品によるものであり、業績は自動車市場の影響を受けやすい。

日本自動車販売協会連合会によると、2011年の新車販売台数（登録車合計）は、東日本大震災のあった3月が前年同期比37.0%減、翌4月が同51.0%減と急減。その後も、9月に前年同期比1.7%増と回復するまで低調な水準で推移した。2010年はエコカー補助金効果があり、補助金が終了した9月までは新車販売台数が伸びていたため、前年同期比の落ち込みはその反動といった面も強いが、こうした市場の変動を受けて自動車関係の受注が減少した結果、同社の12年3月期第2四半期累計の実績でも工業用ゴム事業が1割強の減収。この結果、全体でも減収を余儀なくされている。

ただ、工業用ゴム事業の四半期ごとの売上高をみると、第1四半期（11年4～6月）が8億3,100万円（前年同四半期比17.6%減）だったのに対し、第2四半期（7～9月）では9億4,300万円（同5.6%減）と減収幅が縮小。震災後、自動車関係の受注が回復するにつれて同事業の販売も回復に向かっている。

工業用ゴム事業の四半期推移(単位:百万円、%)

	11年3月期1Q	11年3月期2Q	11年3月期3Q	11年3月期4Q	12年3月期1Q	12年3月期2Q
売上高	1,009	999	931	958	831	943
前年同四半期比増減率	57.4	5.0	-19.5	-16.3	-17.6	-5.6

(会社資料よりモーニングスター作成)

一方、タイで発生した洪水により、国内自動車メーカーの多くが生産に悪影響を受けており、同社への影響も懸念される状況にある。同社のLED関連製品はおよそ半分がホンダ（7267）向けだが、ホンダでは11年10月からタイの2拠点で二輪車および汎用製品の生産を休止。また、日本、米国、カナダの一部の四輪車生産拠点でも生産調整を行った。現在は、これら国内、米国、カナダの拠点は通常操業に戻りつつあり、被災したタイの拠点も復旧が進んでいるが、ホンダでは洪水の影響から合理的な算定が難しくなるとして12年3月期の業績予想を未定とした。ただ、同社では12年3月期通期の連結業績に対する洪水の影響について可能な限り修正予想（11月14日に発表）に織り込んだとしており、想定以上にマイナスの影響を受ける可能性は小さいと考えられる。

事業概要

医療・衛生用ゴムの需要は安定的

他方、医療・衛生用ゴム製品は景気動向による影響を受けにくく、顧客側の定期的な在庫調整による受注変動はあるものの、需要は比較的安定して推移している。

近年、国内の医療現場では、(1) 感染のリスクを低減できる、(2) 誤った薬液量の注射を防止できる、(3) 救急時に迅速な投与ができる——などの利点を持つプレフィルドシリンジ（薬液があらかじめ充填された注射器）の使用が拡大。同社が提供しているプレフィルドシリンジ向けガスケットは、他社製品では難しい注射速度の微妙な調整を可能とするため、需要が好調に推移している。同社では新規顧客からの受注に対応して10年9月に第二福島工場を増築。プレフィルドシリンジ向けガスケットの増産体制をすでに構築している。

医療・衛生用ゴム事業の四半期推移(単位:百万円、%)

	11年3月期1Q	11年3月期2Q	11年3月期3Q	11年3月期4Q	12年3月期1Q	12年3月期2Q
売上高	183	213	264	245	305	294
前年同四半期比増減率	3.4	2.9	28.8	34.6	66.7	38.0

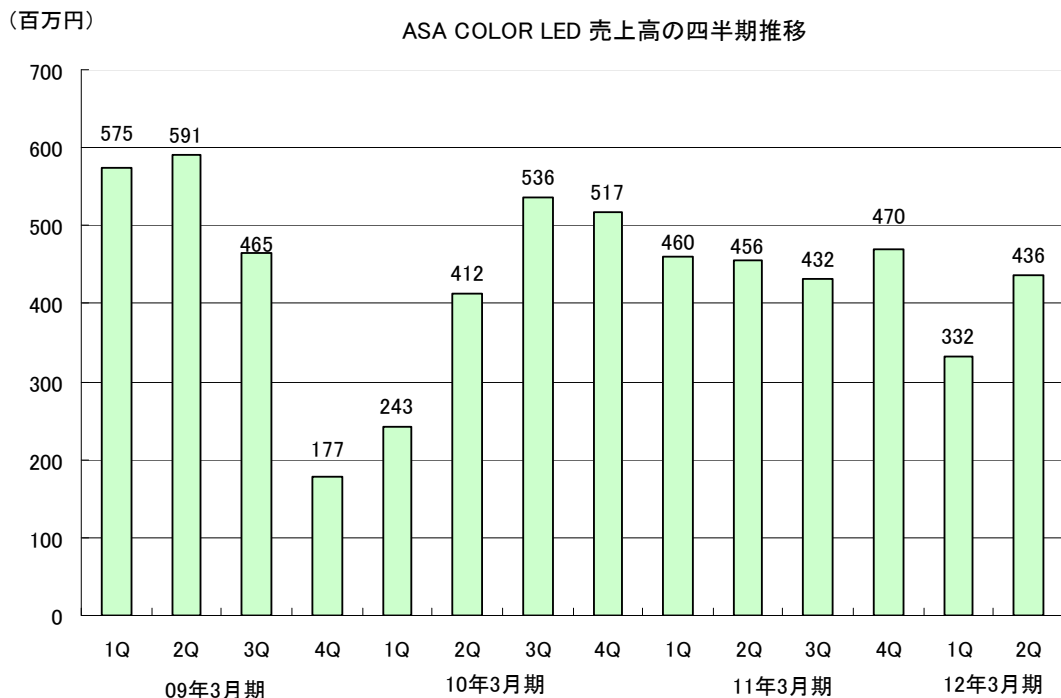
(会社資料よりモーニングスター作成)

主要製品別の販売動向分析

自動車市場の変動により ASA COLOR LED 販売も増減

同社は工業用ゴム事業、医療・衛生用ゴム事業それぞれにおいてコアとなる製品を持っている。ここでは、工業用ゴム事業の主要製品である ASA COLOR LED と、医療・衛生用ゴム事業でのディスプレイ用ゴム製品の販売動向について分析し、同社事業の特徴を明らかにしてみたい。

下表は、09年3月期以降の ASA COLOR LED の四半期売上高推移を示したものである。09年3月期から10年3月期にかけての売上高をみると大きな波があるが、これはリーマン・ショック（08年9月）による自動車市場変動の影響を示している。ASA COLOR LED の売上高は、09年3月期上期には6億円弱で推移していたものの、リーマン・ショックによる自動車市場の失速を受けて、同第3四半期（08年10～12月）から減少。第4四半期（09年1～3月）には売上水準は1.8億円まで低下した。しかし、10年3月期は販売急減からの反動もあり、売上高は順調に増加。第3四半期、第4四半期には5億円超の水準まで回復した。



※会社資料よりモーニングスター作成

一方、エコカー補助金・減税の効果から新車販売が好調だった11年3月期は、ASA COLOR LED の売上高は各四半期とも4億円前後で安定的に推移。通期では18億1,800万円（前年比6.4%増）と3期ぶりの増収となった。これに対し、12年3月期については、期の始めから震災の影響を受けたことで、ASA COLOR LED の売上高は第2四半期累計で7億6,800万円（前年同

主要製品別の販売動向分析

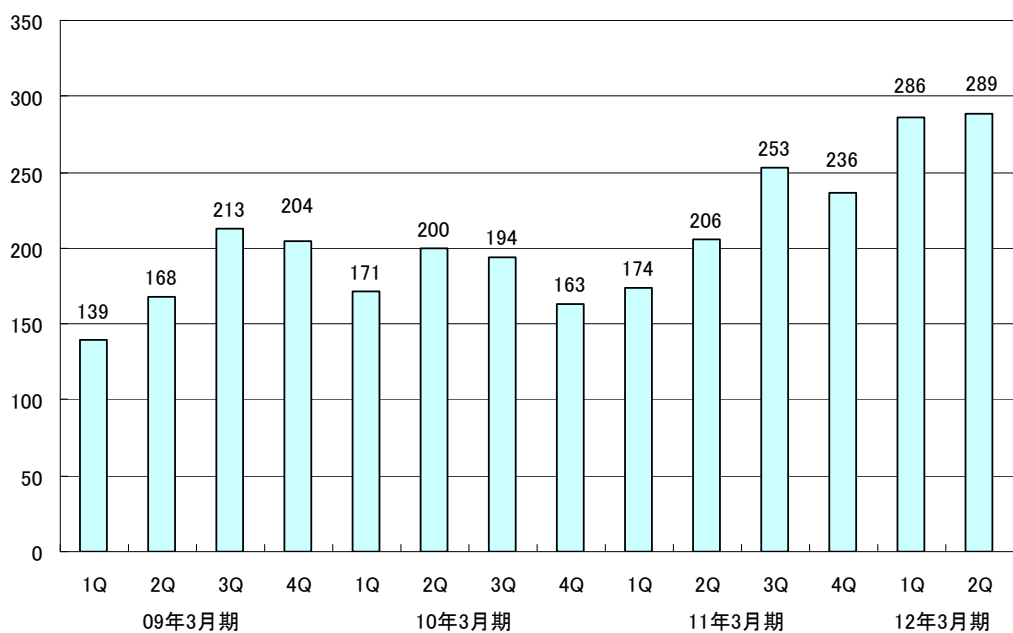
期比 16.2%減)と減少している。ただ、四半期ごとにみると、第1四半期の売上高が3億3,200万円(前年同四半期比27.8%減)だったのに対し、第2四半期では4億3,600万円(同4.4%減)と減収幅が縮小。第3四半期(11年10~12月)の売上高は堅調となったもようで、震災の影響は収束しつつあるとみられる。

ASA COLOR LEDの売上高は採用車種の販売状況によっても異なるが、おおむね自動車市場の動向によって変動している。現在、新車にはLED照明が標準搭載されており、ASA COLOR LEDの販売機会も拡大している。ただ、他メーカー品も改善が図られ競争が激化するなか、LEDに被せるだけで多様な発色を可能にするという同製品の利点をいかにアピールしていくかが拡販に向けた課題となっている。

医療用ディスプレイ製品の需要は増加傾向

他方、医療・衛生用ゴム製品のうち、点滴輸液バッグ用ゴム栓や真空採血管用ゴム栓、プレフィルドシリンジ向けガasketなどのディスプレイ用ゴム製品の四半期売上高を示したのが下表である。これをみると、ディスプレイ用ゴム製品はASA COLOR LEDとは異なり、リーマン・ショック後の09年3月期第3四半期(08年10~12月)および第4四半期(09年1~3月)においても売上高は増加傾向となっている。10年3月期についても、第1四半期と第4四半期に顧客側の在庫調整による減少があったものの、売上高は1億~2億円前後で安定して推移した。

(百万円) ディスプレイ用ゴム製品 売上高の四半期推移



※会社資料よりモーニングスター作成

主要製品別の販売動向分析

一方、11年3月期は、第1四半期から第3四半期にかけて売上高が増加。同社ではプレフィルドシリンジ向けガasketの受注増に対応して第二福島工場（10年9月）を増築しており、11年3月期はこの増築対応が販売拡大につながっている。12年3月期でも、プレフィルドシリンジ向けガasketの好調を背景に、第1四半期、第2四半期とも3億円弱と高水準の売上高を計上。第3四半期以降の売上高も好調な推移が見込まれる。

同社の販売動向を見ると、主力の工業用ゴム事業の売上高が自動車市場の動向により変動しやすいのに対し、医療・衛生用ゴム事業の売上高は比較的安定して推移。同社のディスプレイ用製品は安全性の面で評価が高く、大手の医療関連企業に多くの納入実績がある。医療向けで、(1) 針などを刺してもゴムくずが出ない、(2) 液漏れを起こさない、(3) 溶出する物質がない——といった安全性の高いゴムを実現する同社の配合技術は高い参入障壁になっており、医療・衛生用ゴム事業の需要は安定した推移が見込まれる。今後は主力の工業用ゴム事業をいかに強化していくかが成長のポイントとなろう。

経 営 環 境

経 営 環 境

◆ 経営環境解説

LEDは消費電力が少ないうえ、寿命が長い、水銀や鉛などの有害物質を含まない、といった利点を持つため、急速に普及。ネックだった価格の高さも、大手メーカーが相次いで市場に参入したことで大幅に低下している。

矢野経済研究所の調査（照明市場に関する調査結果 2011、11年12月発表）によれば、2011年のLED照明の市場規模は1,393億円と前年比85.7%増に拡大する見込み。前年比約2倍の750億円と急速に拡大した2010年に続き、2011年のLED照明市場も好調に推移したとみられる。各メーカーから電球形製品が発売され一般にもLED照明が普及するなか、省エネ法の改正（2010年4月）や東日本大震災後の原発事故に伴う節電ニーズの高まりが市場の成長を促している。

ただ、ASA COLOR LEDはLEDに被せて使用されるため、最終製品はLED単体に比べ価格が高くなる。他のLEDメーカーでは、大量に生産したLEDのなかから発光ムラの少ないものを選別する方式を採用。同社のASA COLOR LEDは個々のLEDの特性に応じた製品を制定しているほか豊富な発色が可能な点で優位性を持つが、他メーカー品も改善が図られてきており、価格競争の持続が予想される。このため同社では、原価を低減することでASA COLOR LEDの価格を下げ、普及を一段と加速したい考えである。

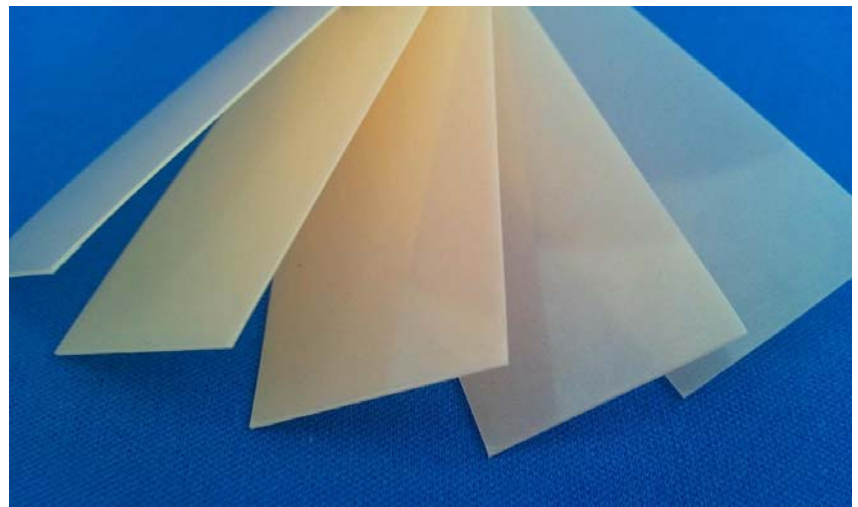
照明関連では、足元でASA COLOR LENSの需要が高まっている。ASA COLOR LENSは集光・光の拡散といった機能を持つシリコン製のレンズで、携帯電話やデジタルカメラ用フラッシュレンズなど向けに採用されているが、これまでは需要が伸び悩んでいた。LED自体のレンズ成形については従来から可能になっているが、ASA COLOR LENSを使用すれば指向角（照射角）をより細かく調整できる。このため、建築物や商業施設向けで引き合いが増加。同社では、12年3月期下期の設備投資計画約2億8,500万円のうち、ASA COLOR LENS製造用の新設備向けに1億円を予定している。

経 営 環 境

蛍光体シート
を開発

なお、新しい展開として同社は、LED 照明の色調を簡単に変換できる蛍光体シートを開発している。同製品は蛍光体を配合したゴムシートで、明るさを落とすことなく効率よく照明の色調を変換することが可能。青色 LED、白色 LED どちらにも対応可能で、光源にかざすだけで既存モジュールの色調を変換できるため使い勝手がよく、幅広いシーンでの利用拡大が期待される。

◆ LED 照明用の蛍光体シート（会社資料より抜粋）



業 績

12年3月期
第2四半期累計は
減収・減益に

12年3月期第2四半期累計の連結業績は、売上高23億7,400万円（前年同期比1.3%減）、営業利益5,800万円（同36.5%減）となった。同社では第2四半期累計の業績予想について8月に期初予想（売上高22億円、営業利益3,600万円）から増額修正を発表し、売上高を22億5,100万円、営業利益を3,800万円としていたが、実績は修正数値をさらに上回った。

セグメント別の業績では、主力の工業用ゴム事業は、売上高17億7,400万円（同11.7%減）、セグメント利益6,700万円（同60.2%減）と減収・減益。一方、医療・衛生用ゴム事業は、売上高5億9,900万円（同51.2%増）、セグメント利益1億600万円（同2.6倍）と大幅な増収・増益となった。

医療・衛生用ゴム
事業では新製品の
受注が寄与

各セグメントの業績を四半期ごとにみると、工業用ゴム事業は、第1四半期が売上高8億3,100万円（前年同四半期比17.6%減）・セグメント利益1,700万円（同82.6%減）、第2四半期が売上高9億4,300万円（同5.7%減）・セグメント利益5,000万円（同27.5%減）。東日本大震災の影響から自動車関連製品の受注が減少した結果、2四半期連続で減収・減益となった。

照明関連の主力製品であるASA COLOR LEDの売上高は、第2四半期累計で7億6,800万円（前年同期比16.2%減）と減少。ただ、四半期ごとの販売動向をみると、第1四半期の売上高が3億3,200万円（前年同四半期比27.8%減）だったのに対し、第2四半期は4億3,600万円（同4.4%減）と、減収幅が縮小しており、販売は持ち直している。

また、工業用ゴム製品のうち、スポーツ用ゴム製品（卓球ラケット用ラバー）の売上高は第2四半期累計で2億1,900万円（前年同期比23.7%増）と大幅に増加した。スポーツ用ゴム製品は前年同期に顧客の販売方針の変更により受注が減少していたが、この受注減少が一巡。また、新製品の受注も増加し、売上高の伸びに寄与した。

医療・衛生用ゴム事業は、第1四半期が売上高3億500万円（前年同四半期比66.7%増）・セグメント利益6,400万円（同3.0倍）、第2四半期が売上高2億9,400万円（同38.0%増）・セグメント利益4,200万円（同2.1倍）。同事業では、前年に受注したプレフィルドシリンジ向けガasketの販売が好調に推移して増収。また、工場での歩留まり改善など生産性の向上による原価抑制などが大きく寄与し、利益面も好調となった。

12年3月期の
通期見通しは増額

第2四半期累計業績の好調を踏まえ、会社側は12年3月期通期の連結業績予想の上方修正を発表。売上高を期初予想（6月に公表）の47億5,000万円から48億2,000万円（前年比0.3%増）に、営業利益を同1億6,800万円から2億200万円（同25.0%増）に見直した。下期については、上期

に好調だった医療用ゴム製品の好調持続を予想。一方、タイで発生した洪水の影響から自動車関係のゴム製品の受注見通しが不透明となっている状況を踏まえて、売上高は期初予想から微増にとどめた。利益面では、引き続き、工場での歩留まりの改善や原価低減活動の効果を想定している。

ただ、第2四半期累計の実績は6月に発表した期初予想を売上高で1億7,400万円、営業利益で2,200万円上回ったのに対し、修正された通期予想は期初予想から売上高で7,000万円、営業利益で3,400万円の増額に止まっている。逆算すると、下期のみの見通しでは期初予想より売上高が減少する計算で、営業利益も保守的な想定となっている印象だ。

モーニングスター
では会社計画から
の上ブレ余地を
見込む

このため、モーニングスターでは12年3月期の業績について、売上高50億円（前年比4.0%増）、営業利益2億4,000万円（同49.1%増）と予想。タイの洪水の影響から工業用ゴム事業の見通しには一部不透明感もあるが、震災影響の一巡により自動車関係の受注が足元で堅調に推移していることや、医療用ゴム製品のプレフィルドシリンジ向けガasketの販売が好調となっていることを考慮すると、売上高は修正計画を上回るとみられる。また、利益面でも、工場での歩留まり改善による利益率の向上や、中国子会社の黒字回復などを踏まえると、さらなる上ブレ余地が見込まれる。

一方、13年3月期の業績についてモーニングスターでは、売上高53億2,000万円、営業利益2億8,000万円と見込んでいる。売上高は、工業用ゴム事業、医療・衛生用ゴム事業それぞれの増収を予想。利益面では、増収効果や生産性改善による寄与を見込んだ。

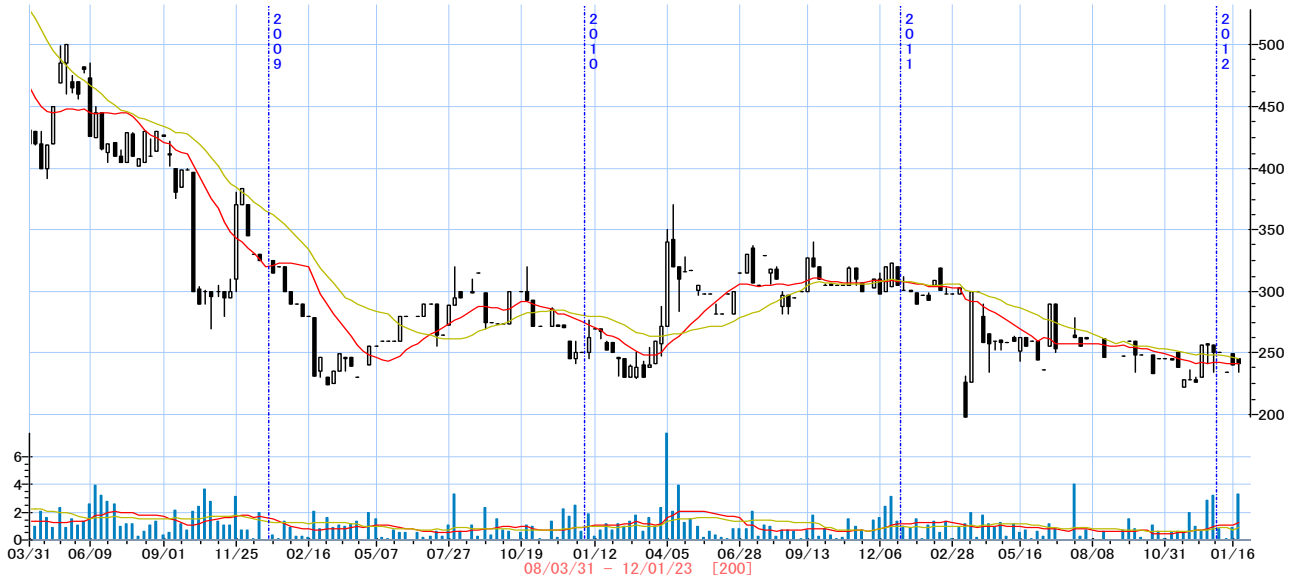
◆ 海外展開について

同社は業績のさらなる成長に向け、14年3月期に海外売上高を12億円（11年3月期は約5億円）に引き上げることを計画している。売上高の内訳は、国内から北米・欧州・アジアなど向けの販売で7億円、東莞朝日精密橡膠製品（中国広東省）の中国販売で5億円としている。

14年3月期に
海外売上高12億
円を計画

海外ビジネスの拡大に向けた施策としてはこれまでに、11年6月に米国ARI INTERNATIONALの営業スタッフ増員や、東莞朝日精密橡膠製品の拡充などを実施。12年4月からは、中国・上海市に設立（3月）する子会社「朝日科技（上海）有限公司」で照明関連製品を販売していく方針である。

朝日ラー - [5162/JQ] 週足 2012/01/26



(出所) 株QUICK
 上記チャート図の一部又は全部を、方法の如何を問わず、また、有償・無償に関わらず第三者に配布してはいけません。
 上記チャート図に過誤等がある場合でも株QUICK 社及び大阪証券取引所は一切責任を負いません。
 上記チャート図の複製、改変、第三者への再配布を一切行ってはいけません。

			2009/03	2010/03	2011/03	2012/03 予 (アナリスト)
株 価 推 移	株 価 (年 間 高 値)	円	500	320	370	-
	株 価 (年 間 安 値)	円	224	229	198	-
	月 間 平 均 出 来 高	百 株	280	185	225	-
業 績 推 移	売 上 高	百万円	4,904	4,667	4,806	5,000
	営 業 利 益	百万円	46	125	161	240
	経 常 利 益	百万円	14	91	117	160
	当 期 純 利 益	百万円	-80	41	21	90
	E P S	円	-17.65	9.20	4.81	19.78
	R O E	%	-2.8	1.5	0.8	3.1
貸 借 対 照 表 主 要 項 目	流 動 資 産 合 計	百万円	2,480	3,660	3,803	-
	固 定 資 産 合 計	百万円	4,049	3,828	3,874	-
	資 産 合 計	百万円	6,530	7,488	7,695	-
	流 動 負 債 合 計	百万円	1,482	2,567	2,322	-
	固 定 負 債 合 計	百万円	2,233	2,060	2,558	-
	負 債 合 計	百万円	3,715	4,627	4,880	-
	株 主 資 本 合 計	百万円	2,829	2,856	2,842	-
キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー 計 算 書 主 要 項 目	純 資 産 合 計	百万円	2,815	2,860	2,814	-
	営 業 活 動 に よ る CF	百万円	795	691	422	-
	投 資 活 動 に よ る CF	百万円	-541	-411	-918	-
	財 務 活 動 に よ る CF	百万円	-271	251	615	-
	現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 末 残 高	百万円	508	1,036	1,142	-

リスク分析

事業および業界に関するリスク

- ・ 同社のゴム製品は多くが独自かつニッチな分野で展開されており、競合リスクは小さい。ただ、LED 市場の拡大もあり、ASA COLOR LED については他の LED メーカーとの競争激化が予想される。
- ・ 新製品や開発製品については、顧客との打ち合わせにより、量産計画および販売時期が管理されている。しかし、顧客側の生産および販売計画の変更などで量産開始や納品時期がズレ込んだ場合、売上の変動により業績に影響が及ぶリスクがある。11 年 3 月期においては、スポーツ用ゴム製品分野で顧客の販売戦略変更の影響を受けたことで、連結業績を下方修正するに至っている。
- ・ 同社ゴム製品の主要なマーケットは車載関連。このため、自動車販売の動向が業績を大きく左右する。LED 照明の自動車への採用は急速に進んでおり、同社の主力製品「ASA COLOR LED」は販売拡大が予想されるが、景気の急速な悪化などにより自動車市場全体が大きく落ち込めば、業績への悪影響は避けにくい。
- ・ 同社は、朝日橡膠（香港）有限公司と東莞朝日精密橡膠製品有限公司の二つの海外拠点を持つほか、北米に販売子会社（ARI INTERNATIONAL CORPORATION）を抱えている。現地で政治・経済情勢などの急変が起こった場合、事業活動に支障をきたす可能性がある。海外売上高は 1 割未満と小さい（11 年 3 月期第 2 四半期累計実績）ものの、為替の円高推移によって売上が目減りするリスクには留意したい。
- ・ 製品原料であるゴムおよびシリコンの市況が高騰した場合、原価率が上昇し、収益性が低下するリスクがある。

ディスクレーム

1. 本レポートは、株式会社大阪証券取引所（以下「大証」といいます。）が実施する「JASDAQアナリストレポート・プラットフォーム」を利用して作成されたものであり、大証が作成したものではありません。
2. 本レポートは、本レポートの対象となる企業が、その作成費用を支払うことを約束することにより作成されたものであり、その作成費用は、当該企業が大証に支払った金額に大証からの助成金を加えたうえでモーニングスター株式会社（以下「レポート作成会社」といいます。）に支払われています。
3. 本レポートは、大証によるレビューや承認を受けておりません（ただし、大証が文面上から明らかに誤りがある場合や適当でない場合にレポート作成会社に対して指摘を行うことを妨げるものではありません）。
4. レポート作成会社及び担当アナリストには、この資料に記載された企業との間に本レポートに表示される重大な利益相反以外の重大な利益相反の関係はありません。
5. 本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的として作成されたもので、有価証券の取引及びその他の取引の勧誘又は誘引を目的とするものではありません。有価証券の取引には、相場変動その他の要因により、損失が生じるおそれがあります。また、本レポートの対象となる企業は、投資の知識・経験、財産の状況及び投資目的が異なるすべての投資者の方々に、投資対象として、一律に適合するとは限りません。銘柄の選択、投資判断の最終決定は、投資者ご自身の判断でなされるようお願いいたします。
6. 本レポート作成にあたり、レポート作成会社は本レポートの対象となる企業との面会等を通じて、当該企業より情報提供を受けておりますが、本レポートに含まれる仮説や結論は当該企業によるものではなく、レポート作成会社の分析及び評価によるものです。また、本レポートの内容はすべて作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
7. 本レポートは、レポート作成会社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、大証及びレポート作成会社は、本レポートの記載内容が真実かつ正確であり、そのうちに重要な事項の記載が欠けていないことやこの資料に記載された企業の発行する有価証券の価値を保証又は承認するものではありません。本レポート及び本レポートに含まれる情報は、いかなる目的で使用される場合におきましても、投資者の判断と責任において使用されるべきものであり、本レポート及び本レポートに含まれる情報の使用による結果について、大証及びレポート作成会社は何ら責任を負うものではありません。
8. 本レポートの著作権は、レポート作成会社に帰属しますが、レポート作成会社は、本レポートの著作権を大証に独占的に利用許諾しております。そのため本レポートの情報について、大証の承諾を得ずに複製、販売、使用、公表及び配布を行うことは法律で禁じられています。

＜指標の説明について＞

本レポートに記載の指標に関する説明は、大阪証券取引所ウェブサイトに掲載されております。

参照 URL ⇒ <http://www.ose.or.jp/jasdaq/5578>